

学校通信

あわやっこ

学校教育目標 “夢や目標の実現に向かってねばり強く歩み続ける児童の育成”

2 学期末に続き 1 月25日(水)も「大雪警報」のため臨時休業となりました。今年の冬は雪がよく降りますね。大人とちがい、子どもたちにとって「雪」は楽しいようです。校庭には大きな雪だるまができてあがっています。



～子どもたちの作文を

読む楽しさを感じて～

文集「たかだに」の発行に向けて、子どもたちの作文が出来上がってきました。子どもたちの文を読むと、文に表したできごとを子どもたちがどう感じ、どう行動したのかが想像できる文章にたくさん出会うことができます。また、「子どもの感受性って、本当にすごいなあ」と思います。「あのとき、そんなことを思っていたんだ」、「あのできごとをそういう見方で見ていたんだ」等『その子ならではの』の素敵な表現がちりばめられています。そして、この文集は子どもたちの手書きの文字でつづられています。手書き文字のもつ温かさとともに、低学年から中学年へ、そして高学年へと、子どもたちの書く「文字の成長」も感じ取ることができるのではないのでしょうか。

第95 号となる文集は、3月上旬以降みなさまのお手元にお届けできるよう準備を進めているところです。一人一人の子ども顔を思い浮かべながら読んでいただくと幸いです。今後の発行に向けて、感じられたことがあれば、学校へお伝えください。お待ちしております。

～ 気になった「ことば」～

「子どもに

もっと挫折させていい」



原晋(青山学院大学陸上部監督)

正月の風物詩「箱根駅伝」で4連覇を含む6度の総合優勝を達成している青山学院大学陸上部を一から育て上げた原監督。「人を育てる」上で大事にしているの

は、「まずは、きちんと自分の考えで動けること」。「失敗を恐れて、挫折もしない。そのまま大人になってしまう人が少なくない。挫折も失敗もしない人は挑戦もできない」と。

「失敗、挫折しても大丈夫。またチャレンジすればいい」と安心して失敗できる気持ちを子どもが持っている。このことは、小学生にとって大切なことです。この安心感がないと、次のチャレンジはできにくいもの。失敗した時、その結果だけを取り上げ、「何やってる!」「だから言ったじゃないか!」と取り組んだ過程を含め否定する言葉を聞き続けると、再チャレンジしようとはなかなか思えません。だからこそ、まわりの大人の言葉・態度で、この安心感は育まれていくものと自覚しておきたいものです。「人は失敗する生き物。しかし、人は失敗を次に生かすことができる生き物でもある」と、結果にこだわり過ぎず、

チャレンジする過程を肯定的に認める声掛けを心がけ、まずはまわりの大人が、できるところから実行していきたいものです。

(令和5年1月14日

朝日新聞より)

